

なし幸水への葉面散布が糖度向上に及ぼす影響

1. 試験のねらい

近年の産地間競争の中で、なし幸水においても高品質果実の要望が市場等から強まり、高糖度果実の生産技術の確立が望まれている。このような背景の中、糖度向上効果をうたった多種多様な葉面散布剤が販売されている。そこで、その効果を確認するため平成2年から3年に検討した。

2. 試験方法

幸水（平成2年に25年生、4本主枝仕立て）8樹を供試して、主枝単位に下表の葉面散布剤2.5～3.0リットルを、手動噴霧器で5月中旬から約2週間間隔で8月中旬まで7回散布した。なお、1樹には主枝3本に対して3種類の薬剤を処理し、残りの主枝は無処理区として4反復を行った。糖度の調査は、あらかじめ側枝単位に決めておいた約50個の果実について収穫時に行った。

表 - 1 供試薬剤及び処理濃度

供 試 薬 剤 名	処 理 濃 度	成 分 (%)							
		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	Mg	Mn	B	CaO	
リン酸1カリウム	0.5%		52.2	—	34.5				
液体シヤンプ	300倍	6	—	1	—	3			
N C S	100倍	1							1
メリット3号	300倍	0	—	10	—	9	—	0	— 0.1 — 0.21
F A - 2 1	500倍	6	—	1	—	1.5			
フルハート	500倍	2	—	9	—	5	—	0	— 0.1 — 0.1
グリーンアロー-2号	500倍	8	—	2	—	2	—	2	— 0.5 — 0.5

注 1 . フルハートは平成2年、グリーンアロー-2号は平成3年のみ使用

2 . 平成2年のNCSの処理濃度は150倍、メリット3号は500倍

3. 試験結果および考察

糖度については表-2のとおりで、各薬剤ともに無処理区と比べて明らかな差がみられず、糖度向上効果はなかった。収穫日については表-3のとおりで、各薬剤ともに無処理区に比べ明らかな差がみられなかった。また、両年ともに、リン酸1カリウム、NCSの散布区において5月下旬に葉裏に茶褐色の斑点がみられた。

4. 成果の要約

平成2年及び3年ともに平年より糖度の高い年で、低糖度の年の葉面散布剤の効果は明らかでないが、本試験に供試した葉面散布剤による果実の糖度向上効果は期待できないものと考えられる。

(担当者 果樹部 高橋建夫)

表 - 2 糖度に対する影響 (2 年の平均、%)

薬剤名	処理区平均糖度	無処理区平均糖度	T 検定
リン酸 1 カリウム	11.63	11.68	N. S.
液体 シャンプ	11.74	11.68	N. S.
N C S	11.57	11.69	N. S.
メリット 3号	11.76	11.78	N. S.
F A - 21	11.73	11.77	N. S.
フハート	11.96	11.86	N. S.
ケリーアロ-2号	11.40	11.70	N. S.

注. 平均糖度は各区ともに 235 g 以上の果実

表 - 3 収穫日に対する影響 (月. 日)

薬剤名	処理区平均収穫盛り日	無処理区平均収穫盛り日	T 検定
リン酸 1 カリウム	9. 1	8.29	N. S.
液体 シャンプ	8.29	8.29	N. S.
N C S	8.29	8.29	N. S.
メリット 3号	8.28	8.29	N. S.
F A - 21	8.28	8.29	N. S.
ケリーアロ-2号	8.29	8.29	N. S.

注. 平成 3 年の収穫日